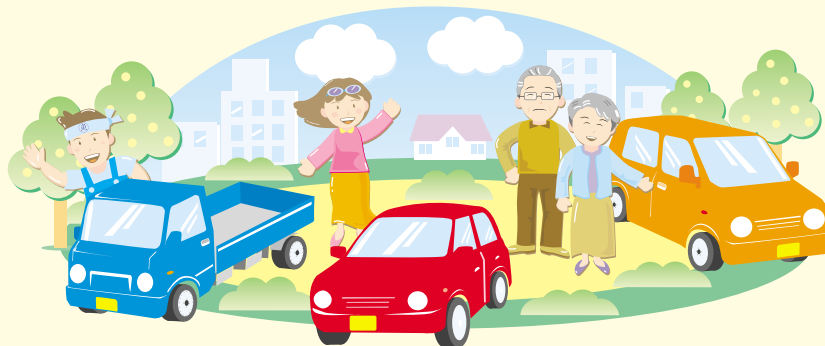


社会に貢献する軽自動車



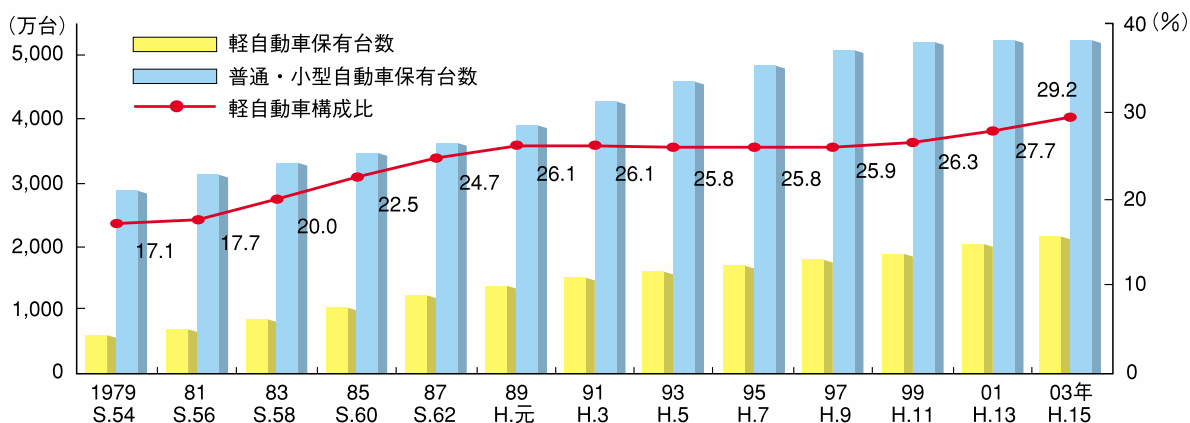
軽自動車は1949年（昭和24年）に規格が制定されました。1960年代はモータリゼーションの牽引役として、1980年代以降はセカンドカーとして普及するなど「経済性」や「使いやすさ」から、その役割を果たしてきました。

また1998年（平成10年）には衝突安全基準が普通・小型自動車と同一となりました。近年、環境面から小さな車が注目されるなかで、軽自動車は「省資源・省エネルギー・省スペース」に優れた車として社会に貢献しております。

- 地方で活躍する軽自動車** … 軽自動車は、公共交通機関が不便な地方で代替交通手段として使用されており「日常生活の足」として活躍している。
- 生活に密着した軽自動車** … 軽自動車は、「通勤・通学」「買物・送迎」などの移動手段、また小規模事業者の輸送手段として「生活に密着した」使われ方をしている。
- 環境にやさしい軽自動車** … 軽自動車は、車体や排気量が小さく車両重量も軽いため、「省資源・省エネルギー・省スペース」に貢献している。

◆軽自動車の保有台数は現在、2,100万台を超えており、自動車の総保有台数に占める軽自動車の割合は着実に増加している。軽自動車は日本のクルマ社会のなかで重要な役割を果たしている。

自動車保有台数・軽自動車構成比の推移



*各年3月末現在

*資料：「自動車保有車両数」(財)自動車検査登録協会のデータ

編集・発行 (社)全国軽自動車協会連合会

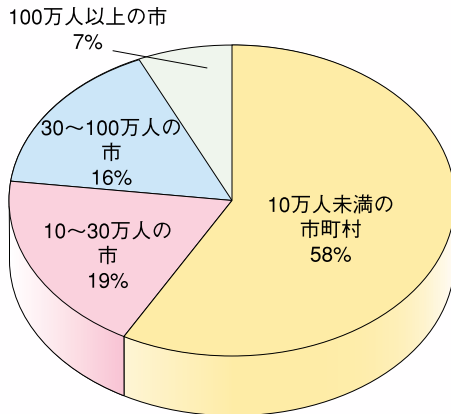
スズキ株式会社・ダイハツ工業株式会社・日産自動車株式会社・富士重工業株式会社・
本田技研工業株式会社・マツダ株式会社・三菱自動車工業株式会社

地方で活躍する軽自動車

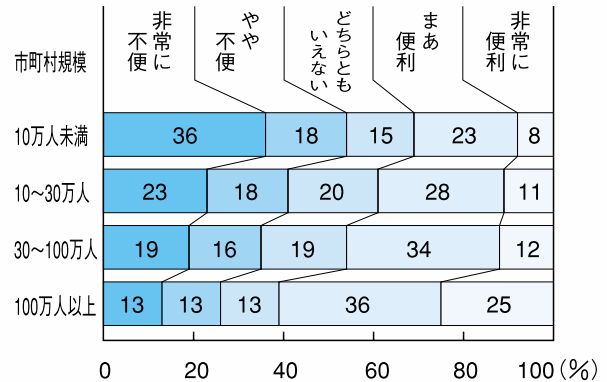
地方で役立つ

- ◆軽自動車は、人口10万人未満の市町村で約60%が保有されている。
これらの地域では多くの軽自動車ユーザーが周辺の公共交通機関を不便であると感じている。
軽自動車の普及率の高い県では鉄道営業キロ数が短く軽自動車が公共交通機関の代替手段として、日常生活に欠くことのできない存在となっている。

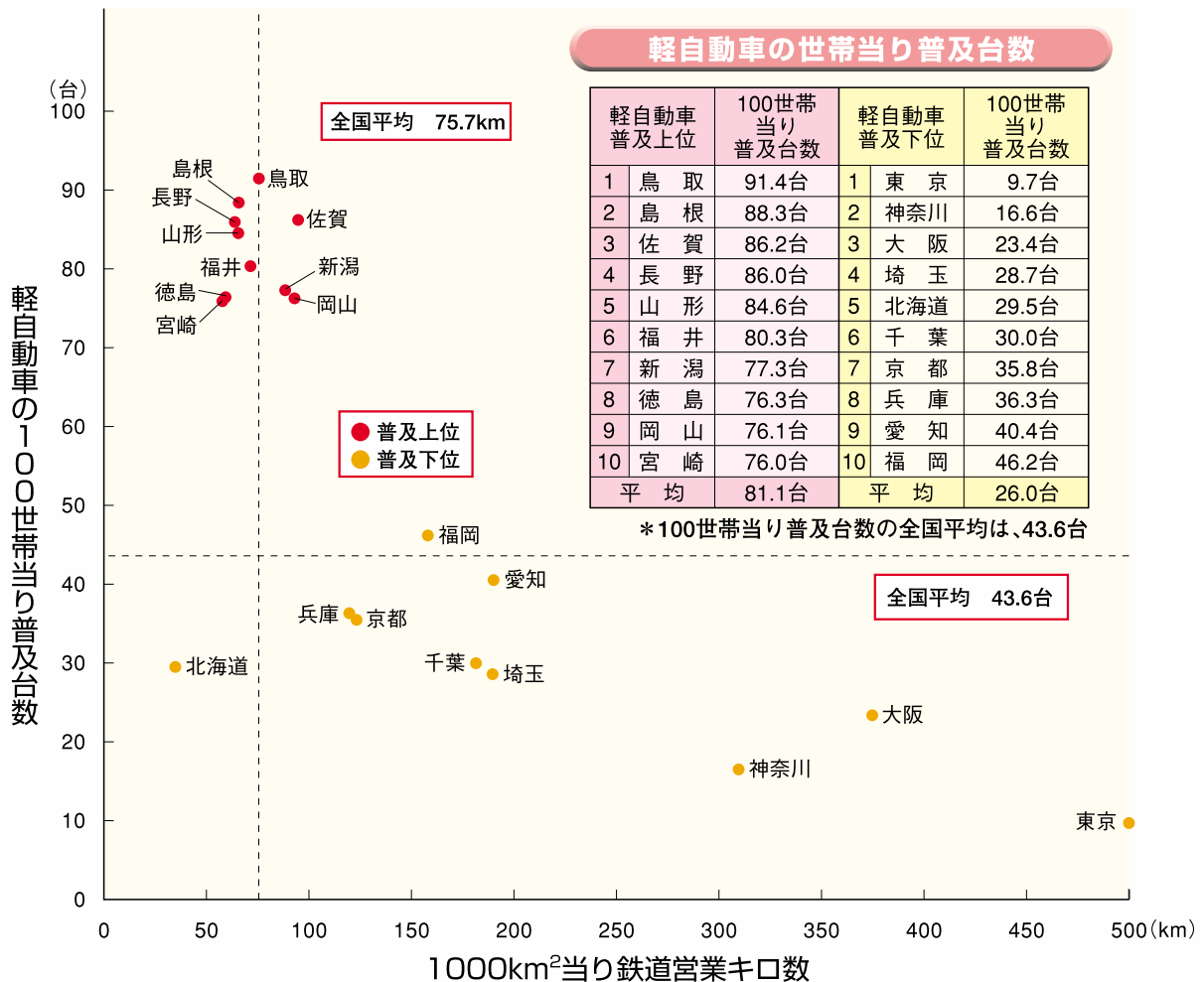
都市規模別の軽自動車保有台数構成比



周辺の鉄道の利便性(軽自動車ユーザー)



軽自動車の世帯当り普及台数と鉄道営業キロ数の相関



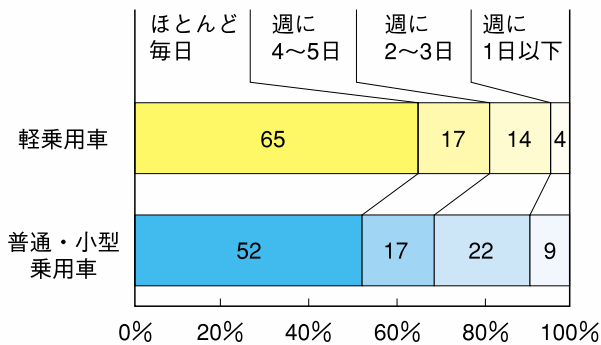
* 資料：100世帯当り普及台数…03年3月末現在、(社)全国軽自動車協会連合会調べ
1000km²当り鉄道営業キロ数…02年4月1日現在、地方運輸局調べ

生活に密着した軽自動車

使われかた

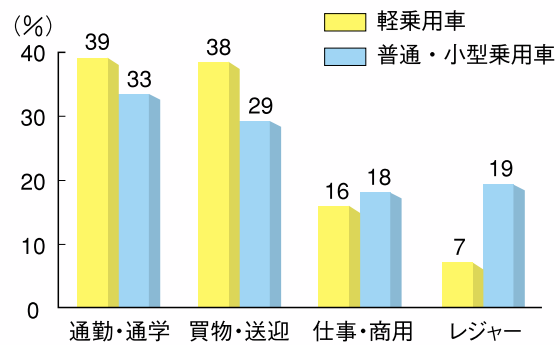
- ◆軽乗用車ユーザーの多くは、ほとんど毎日、軽乗用車を使用している。その主な用途は「通勤・通学」「買物・送迎」であり、「レジャー」目的の使用は少なく、軽乗用車は生活に密着した使われ方をしている。

軽乗用車ユーザーの使用頻度



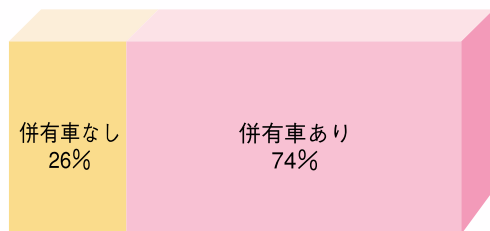
*資料：「平成13年度乗用車市場動向調査」(社)日本自動車工業会

乗用車ユーザーの主な用途

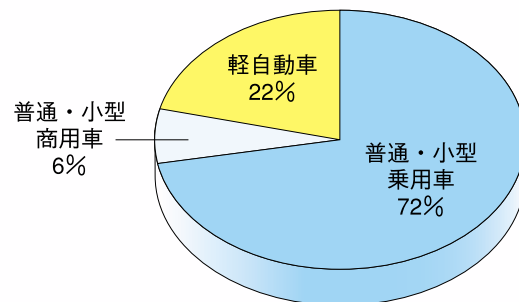


- ◆軽自動車の保有世帯では、複数の車を所有する比率が74%と高く、併有車は普通・小型乗用車が多い。こうした世帯で、軽自動車はセカンドカーとして使用されており、棲み分けがなされている。

軽乗用系ユーザーの併有率



軽乗用系保有世帯での併有車の車種



選ばれる理由

- ◆軽自動車は、維持費の安さなどの「経済性」と、運転のしやすさなどの「使いやすさ」から選択されている。

経済性からの選択理由

(複数回答 単位：%)	経済性		
	税金が安い	価格が安い	燃費が良い
軽乗用系	85	47	48
軽キャブバン	75	44	40
軽トラック	52	49	44

使いやすさからの選択理由

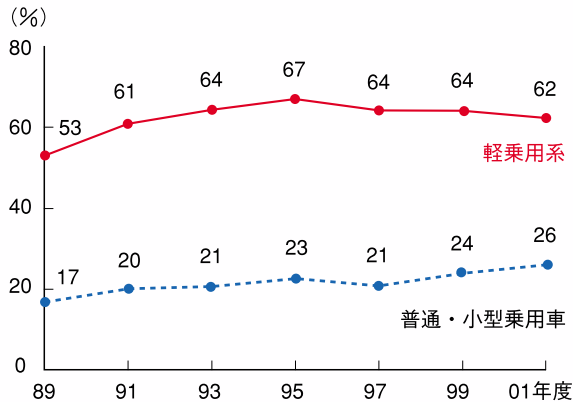
(複数回答 単位：%)	使いやすさ				
	狭い道で 使いやすい	運転が しやすい	駐車 しやすい	買い物・用 足に 向いている	積み下ろし しやすい
軽乗用系	56	61	34	46	—
軽キャブバン	57	44	35	—	52
軽トラック	60	40	24	—	75

生活に密着した軽自動車

女性に人気

- ◆軽乗用系ユーザーは3人に2人が女性で、この比率は普通・小型乗用車に比べて非常に高い。
また、女性ユーザーの80%以上が既婚女性である。
- ◆既婚女性の就業率の高い県では軽自動車が普及しており、地方で働く女性の日常生活の足として不可欠な移動手段となっている。

主運転者の女性比率の推移



* 資料：普通・小型乗用車データ「平成13年度乗用車市場動向調査」(社)日本自動車工業会

軽自動車の普及と既婚女性の就業率

軽自動車普及上位	既婚女性就業率	軽自動車普及下位	既婚女性就業率
1 鳥取	61.7%	1 東京	43.4%
2 島根	60.2%	2 神奈川	40.9%
3 佐賀	56.6%	3 大阪	39.1%
4 長野	58.8%	4 埼玉	45.2%
5 山形	63.3%	5 北海道	43.5%
6 福井	63.7%	6 千葉	44.6%
7 新潟	59.2%	7 京都	45.5%
8 徳島	52.6%	8 兵庫	41.6%
9 岡山	51.9%	9 愛知	50.2%
10 宮崎	54.5%	10 福岡	45.0%
平均	57.8%	平均	43.6%

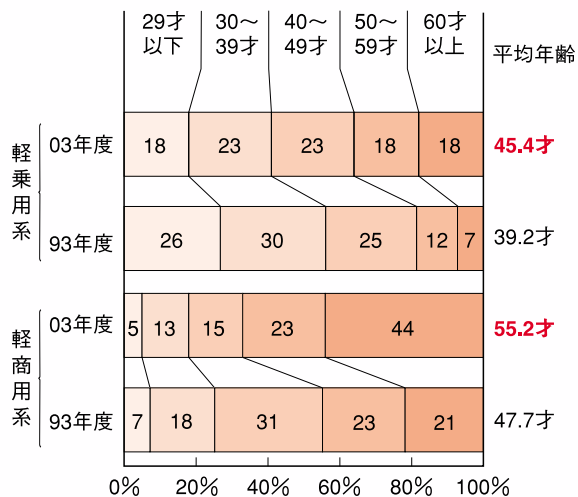
* 既婚女性就業率の全国平均は、48.1%

* 資料：「00年国勢調査」総務省

高齢者にも役立つ

- ◆高齢者の人口が増えるなか、軽自動車ユーザーの高齢者比率も年々増加している。特に軽自動車の普及している地域では、65歳以上の高齢者のいる世帯比率が高い。高齢者にとってコンパクトで運転しやすい軽自動車の必要性は、ますます高まっている。

運転者の年齢



軽自動車の普及と高齢者のいる世帯比率

軽自動車普及上位	65歳以上世帯比率	軽自動車普及下位	65歳以上世帯比率
1 鳥取	44.5%	1 東京	25.2%
2 島根	47.9%	2 神奈川	24.6%
3 佐賀	42.7%	3 大阪	27.0%
4 長野	41.6%	4 埼玉	25.0%
5 山形	49.6%	5 北海道	30.1%
6 福井	43.2%	6 千葉	26.6%
7 新潟	43.6%	7 京都	31.1%
8 徳島	40.8%	8 兵庫	32.1%
9 岡山	37.6%	9 愛知	27.8%
10 宮崎	36.8%	10 福岡	30.9%
平均	42.2%	平均	27.3%

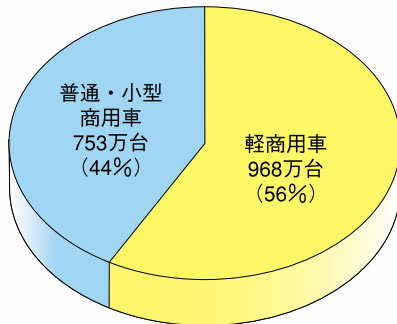
* 65歳以上世帯比率の全国平均は、32.0%

* 資料：「00年国勢調査」総務省

仕事で活躍

- ◆商用車の総保有台数の大半を占める軽商用車は、個人商店・町工場・農家などで活躍している。また、その用途は広く「小口配送」「工場等への足」「農作業」など近距離での使用が多い。特に従業員が1～4人という小規模事業所にとって軽商用車は必需品であり、仕事や商売に深く関わっている。

軽商用車と普通・小型商用車の保有比率

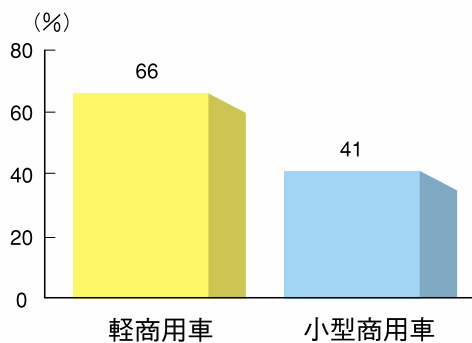


* 資料：03年3月末現在、「自動車保有車両数」
(財)自動車検査登録協会のデータ

軽商用系の主な使い方

(複数回答 単位：%)	小口 配送	工場等 への足	田畑への 往復・ 農作物の 運搬	営業活 動
軽キャブバン	35	27	23	18
軽トラック	21	20	56	6

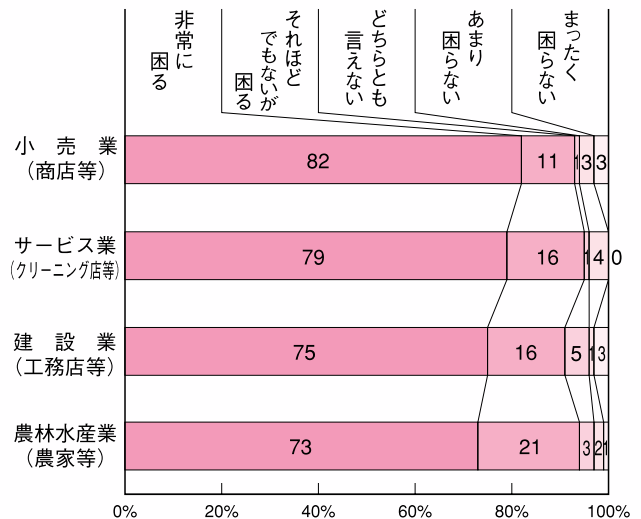
商用車ユーザーの小規模事業所の割合



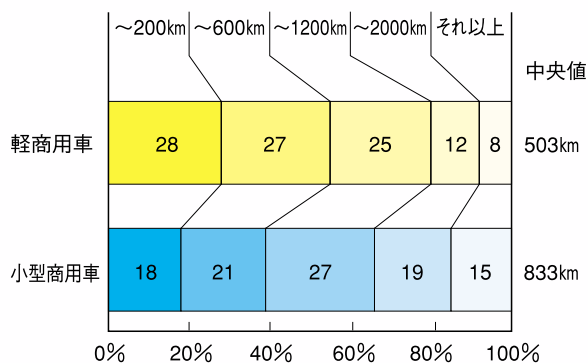
* 資料：「平成14年度小型・軽トラック市場動向調査」
(社)日本自動車工業会

軽商用車ユーザーの必要度

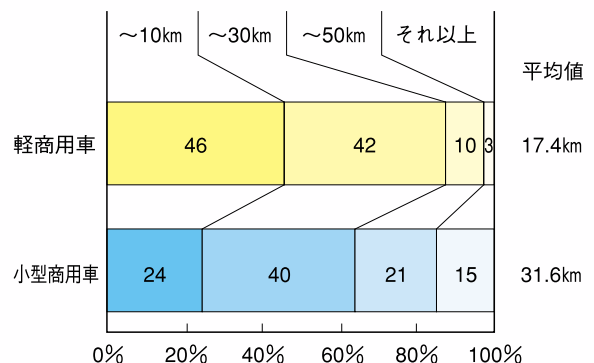
「軽商用車がなくなると」



月間走行距離



行動半径比較



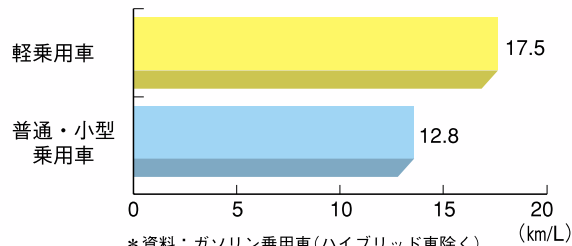
* 資料：「平成14年度小型・軽トラック市場動向調査」(社)日本自動車工業会

環境にやさしい軽自動車

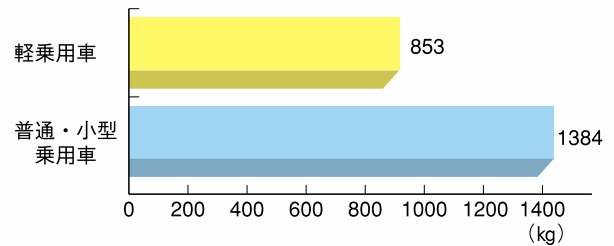
省資源・省エネルギー

◆軽自動車は小排気量(660cc)で燃費が良く、使用する原材料も少ないため、省資源・省エネルギーに優れた環境にやさしい車として社会に貢献している。

平均燃費比較 (A T 車)



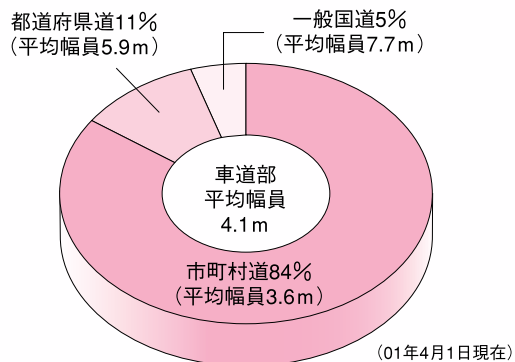
車両重量比較 (A T 車)



省スペース

◆日本の道路の約84%は市町村道であり、その平均幅員は3.6mと狭い。軽自動車は必要最小限の車体サイズであり、道路占有面積も小さく省スペース性に優れているため、渋滞緩和にも寄与している。

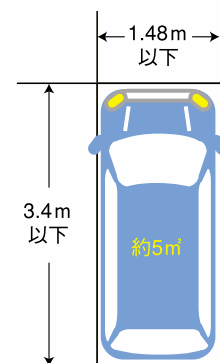
一般道路に占める市町村道の割合



* 資料：「道路交通経済要覧 平成14年度版」道路交通経済研究会

軽自動車の車体サイズ

◆軽自動車の車幅は1.48mであり、平均幅員3.6mの市町村道において、スムーズなすれ違いができる。



道路に優しい

◆アスファルト舗装道路の損傷度は自動車の軸荷重(車両重量)の4乗に比例する。軽自動車は車両重量が軽く、道路への負荷が極めて小さい。

* 資料：車両重量…「自動車燃費一覧 平成15年3月」(国土交通省)に掲載されたガソリン乗用車(ハイブリッド車除く)の車両重量中の中間値を平均したもの
：道路損傷度…軸荷重の4乗に比例する(「アスファルト舗装要綱」(社)日本道路協会)

道路損傷度比較 (A T 車)

	軽乗用車	普通・小型乗用車
車両重量	853kg	1384kg
重量比	1	1.6
道路損傷度	1	6.9

(参考)

* 本冊子においては、軽自動車を原則として次のように分類しています。

軽乗用系(軽乗用車・軽ボンネットバン)、軽商用系(軽キャブバン・軽キャブワゴン・軽トラック)

* 特に出典の記載がない図表の資料は「平成15年度軽自動車使用実態調査報告書」(社)日本自動車工業会のデータを用いています。

〈調査対象地域：全国、回収数 3,117サンプル〉